

本郷新・全部展



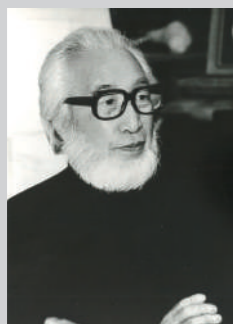
本郷新
《飛天》1961年 石膏



本郷新
《暁の顔》《淳の顔》
1934年 ブロンズ



本郷新
《わだつみの声》(部分)
1950年 石膏



本郷新肖像 (70歳頃)

本郷新 ほんごう しん 【1905-1980】

戦後日本の具象彫刻を牽引した札幌生まれの彫刻家。東京高等工芸学校(現千葉大学工学部)工芸図案科工芸彫刻部で彫刻を学ぶとともに、高村光太郎に師事。ロダン、プールデルなど西洋近代彫刻の影響を受けながら、写実を基盤とした造形を探究します。

彫刻の社会性、公共性を重要視した本郷は、戦後、モニュメンタルな野外彫刻の制作にとりわけ熱意を傾けました。1960年代以降、公共空間のなかの芸術に対する社会的な意識の高まりに伴って、本郷の彫刻は日本各地に次々と設置されました。

略年譜 ※年齢はその年の誕生日を迎える前の年齢です。

1905年(明治38年)

12月9日、札幌市に生まれる。

1924年(大正13年) 19歳

東京高等工芸学校(現千葉大学工学部)工芸図案科工芸彫刻部入学。

1928年(昭和3年) 22歳

卒業後、国画創作協会第7回展に《少女の首》初入選。

この頃より高村光太郎に師事。

1939年(昭和14年) 33歳

国画会を退会し、山内壮夫、柳原義達、佐藤忠良、舟越保武らとともに新制作派協会彫刻部創立に参加。

1942年(昭和17年) 36歳

彫刻論集『彫刻の美』(富山房)を刊行。

1950年(昭和25年) 44歳

わだつみ会の依頼により、戦没学生記念像《わだつみのこえ》を制作。

1953年(昭和28年) 47歳

立命館大学に《わだつみのこえ》が設置される。この作品により日本平和文化賞受賞。

1959年(昭和34年) 53歳

第5回日本国際美術展(毎日新聞社主催)で木彫《哭》が優秀賞受賞。札幌市の大通公園に《泉の像》が設置される。

1960年(昭和35年) 54歳

広島平和記念公園に《嵐の中の母子像》が設置される。

1963年(昭和38年) 57歳

稚内市に樺太島民慰霊碑《氷雪の門》が設置される。

1970年(昭和45年) 64歳

旭川市常盤公園に、北海道開拓記念碑《風雪の群像》が設置される。

1971年(昭和46年) 65歳

札幌市真駒内に冬季オリンピック記念碑《雪華の像》、五輪橋に《花束》が設置される。

1973年(昭和48年) 67歳

大阪市中之島公園に《緑の讃歌》が設置される。

1974年(昭和49年) 68歳

第28回北海道新聞文化賞受賞。

1975年(昭和50年) 69歳

本郷新彫刻50年記念自選展を東京と札幌で開催。

1978年(昭和53年) 72歳

第30回北海道文化賞受賞

1980年(昭和55年) 74歳

2月13日、東京の自宅にて肺がんのため死去

当館が所蔵する本郷新の作品数

彫刻 648点

ブロンズ	151点
コンクリート	3点
樹脂	4点
木	13点
石	6点
石膏	364点
テラコッタ	63点
レリーフ	44点

油彩 105点

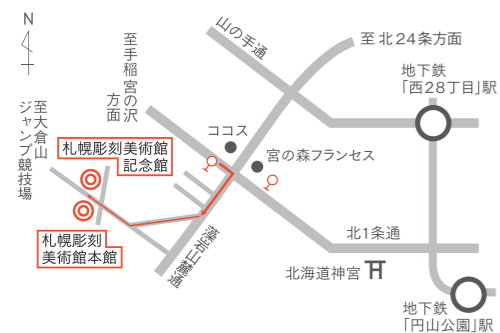
素描 972点

版画 39点

画皿 6点

合計 1,770点

(2020年3月現在)



交通アクセス

●公共交通機関をご利用の場合

地下鉄東西線「西28丁目」駅バスターミナル2番のりばから山の手線循環西20乗車(約5分)「彫刻美術館入口」下車、徒歩約10分

●お車をご利用の場合

市内中心部より約15分、無料駐車場10台あり

最新情報はSNSで更新中



本郷新記念札幌彫刻美術館

Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo

〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目

☎ 011-642-5709

<http://www.hongoshin-smos.jp/>

ご来場のお客さまへ

- ご来館の際は、マスクの着用をお願いします。
- 飛沫拡散防止のため、展示室、ロビーでの会話は控え、咳エチケットをお守りください。
- 入館の際、備え付けの消毒液で手指を消毒してください。
- 受付にて、名前・連絡先のご記入、検温へのご協力をお願いします。
- 発熱あるいは倦怠感、風邪症状のある方は、来館をお控えください。
- 定期的に館内の換気、ドアノブ・手すりの消毒等を行いますので、ご理解とご協力をお願いします。

没後40年記念 ある物、全部、蔵出します。

本郷新・全部展



本郷新《哭》1959年 クスノキ



本郷新《哭》1959年 石膏

同じ哭でも、別の哭。

本郷新記念札幌彫刻美術館

Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo

本館 本郷新・全部展①

2020年10月3日[土]～12月6日[日]

記念館 本郷新・全部展②

2020年10月3日[土]～2021年4月22日[木]

新型コロナウイルス感染症の予防・拡大防止により会期が変更になる場合がございます。ホームページをご確認のうえご来館ください。

休館日	月曜日 ただし、祝日の場合は開館し翌火曜休館
開館時間	午前10時～午後5時(最終入館は午後4時30分まで)
観覧料	一般 300(250)円、65歳以上 250(200)円、高大生 200(150)円、中学生以下 無料 ※()内は10名以上の団体料金 ※「本郷新・全部展②」(記念館)の12月8日(火)以降は、料金が時期によって変わります。 ホームページをご確認ください。

〒064-0954

札幌市中央区宮の森4条12丁目

☎ 011-642-5709

<http://www.hongoshin-smos.jp/>

主催 | 本郷新記念札幌彫刻美術館(札幌市芸術文化財団) 後援 | 北海道、札幌市、札幌市教育委員会



札幌生まれの彫刻家、
本郷新の知られざる
様々な面に迫るシリーズ展。

第一弾の全部展①では、当館に多数所蔵される本郷の素描、油彩、版画作品を、本館を会場に公開し、彫刻家が平面作品に向けた情熱を紹介します。

同時オープンの全部展②は、隣接する記念館で展開。若かりし頃のブロンズ彫刻を中心に、本郷芸術の揺籃期に焦点をあてます。あわせて、コンクリート作品の《鳥の碑》とその石膏原型などをとりあげ、同形の作品が複数存在するという彫刻ならではの「複数性」の問題を考えます。



本郷新《嵐の中の母子像》1953年 石膏

本館 全部展① 彫刻家の絵

2020年10月3日[土]～12月6日[日]



本郷新《白樺の詩》1980年 鉛筆、水彩/紙



本郷新《若き日の佐藤忠良氏》1948年 油彩/キャンバス



本郷新《無辜デッサン—砂漠の女》制作年不詳 インク、水彩/紙

本郷新記念札幌彫刻美術館に所蔵される本郷新の作品、1,770点の内、約6割の1,122点が絵画です。本郷新にとって、絵を描くことはいつも彫刻制作のすぐ傍らにありました。彫刻制作のための設計図のように描かれたデッサンから、純粋に絵を描くことに喜びを見出して筆をとった絵画までを展示します。

記念館

全部展② 彫刻の複数性

2020年10月3日[土]～2021年4月22日[木]

石膏原型とブロンズ像

ブロンズ彫刻が絵画と大きく異なる点の一つは、同じ形の作品が複数あるということです。一般に完成作品と考えられるブロンズ彫刻の制作過程で作られる石膏原型は、ブロンズ作品と同じ大きさ、同じ形をしています。オリジナル性がしばしば注目される芸術という分野において、いわば「複製品」ともいえる物が複数生まれることには、どこか不思議な感覚を覚えるかもしれません。彫刻を彫刻たらしめる、この複数性の問題を、数々の石膏原型とブロンズ像を通して考えます。彫刻家にとって石膏原型とは、ブロンズ彫刻とはどのような存在なのでしょう。若かりし頃の頭像作品を中心にひも解きます。



本郷新《子ども》1934年
ブロンズ



本郷新《子ども》1934年
石膏

《無辜の民》に見る石膏像への視線



本郷新《無辜の民—アラブ》1970年 ブロンズ

本郷新はブロンズ彫刻のみならず、石膏原型にも大きな価値を見出し、独自の試みをしていました。たとえば「無辜の民」シリーズでは、石膏原型に本物の布を巻き、人体を束縛する衣を表現しました。さらに表面には、ブロンズ彫刻を鋳造するためには不要な着色までほどこしています。



本郷新《無辜の民—アラブ》1970年 石膏

記念館

《鳥の碑》再生ドキュメント

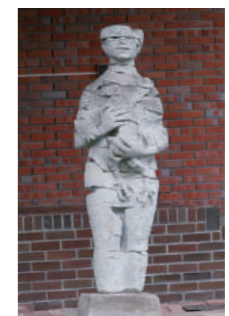
2020年10月3日[土]～2021年4月22日[木]

本郷新が1963年にコンクリートで制作した彫刻、《鳥の碑》。この作品は、本郷新記念札幌彫刻美術館が1981年に開館して以来、記念館庭園に設置されていました。2018年11月、作品点検中に作品と台座をつなぐ芯棒が折れ、転倒。作品の再設置をどのように行うか、一年半にわたり繰り返し検討が重ねられてきました。

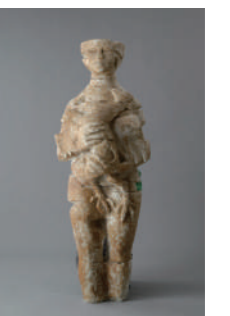
この作品には実は、形がよく似た「子ども」がいます。コンクリート作品から型取りをして制作した、石膏原型の《鳥の碑》です。この石膏原型をもとに3体のブロンズ像が鋳造

され、東京や北海道の石狩、長万部に設置されています。これらブロンズ像の《鳥の碑》は、コンクリート作品の「子ども」である石膏原型から生まれた、「孫」であるといえるでしょう。

このたび、転倒した作品の再設置にあたっては、コンクリート素材の老朽化が懸念されることなどから、石膏原型から新たにブロンズ像を鋳造する方法を採用することとなりました。本展では、もう一人の「孫」がここに誕生するに至るさまざまな検討の経緯をご紹介します。



本郷新《鳥の碑》1963年
コンクリート



本郷新《鳥の碑》1979年
石膏



2018年に転倒した《鳥の碑》